



新年のご挨拶

社友会会長 牧之田 哲郎

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
また、平素より社友会運営にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、日本で初めての女性総理の誕生、先の見えない物価高、毎年暑くなる夏（猛暑日が横浜で12日、東京で25日）、熊による被害の多さ（人里・市街地まで出没、自衛隊の派遣）等が思い出されます。

社友会におきましても、大西前会長の運営方針を引き継いで新しい体制になりました。前会長が担われていた色々な業務を三役や幹事の皆さんにも分担して頂き、何とか運営できている状況です。

総会・懇親会は昨年より場所を川崎から横浜みなとみらい地区に移し開催しました。広々として開放感があり横浜港が一望できるロケーションで参加された皆さんからの評判も上々でした。

また、新たな取り組みとして長寿（喜寿・米寿）を迎えられる人で参加されている方には懇親会の場でお祝いをお渡しして皆さんで祝福しました。

広報活動は「メール」による迅速な連絡（随時）、「会報・たより」の発刊（2回／年）、「ホームページ」の充実（迅速な情報提供と定期的な更新（1回／月））と、引き続き力点を置いて取り組んでいます。

『仲間と互いに健康交流！』をキャッチフレーズに行事（総会・懇親会、ハイキング、暑気払い、同好会活動等）の益々の充実を図っていきます。これからも皆さんで偶には集ってお互いの元気を確認し、近況報告や昔ばなしに花を咲かせましょう。

今年の干支は60年周期で訪れる「丙午（ひのえ・うま）」です。この年は情熱や変化を象徴し、丙は火の性質を持ち、午は行動力の象徴とされています。丙午は特別視されており、情熱的で強い意志を持つ年とされています。我々幹事会メンバーも社友会運営に今以上に情熱を持って取り組み更なる活性化を図りたいと思っています。

引き続き会員の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

会員の投稿記事

東亜石油の思い出（前編）

根本 信成さん

社友会事務局から、何か一筆お願いできませんか・・・と、依頼された。その昔高校時代の古文の授業で講義されていた「徒然草」の序文には「つれづれなるままに、日ぐらし硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書き付くれば、あやうこそ物狂ほしけれ。」とあり、現代風に要約すると、何時も暇で退屈しているだろうから、パソコンに向かってキーボードを叩いて何か色々なことへの思いを書き留めては如何？とのことであろうと思われる。そこで何を話題にするか、思いを巡らせた結果、入社した頃、入社してからの良い・悪いにつけ経験した多くの事柄の中で印象に残っている事の一部を箇条書きにしてここに記載しました。作成中は、当時のことが昨日であったかのような不思議な感覚になりました。



昭和38年に入社した頃の状況とその後経験したこと

1. 当時の政治情勢

昭和35年7月、安保闘争により退陣した岸信介内閣のあとを受けて、池田内閣が発足、「所得倍增計画」をスローガンとして、高度経済成長政策を行い、国会では「私は嘘は申しません」と答弁され話題になりました。そして、「貧乏人は麦を食え」との発言があり、国民の怒りを誘った政治家でもありました。今になって想えば健康には大変良い食事のようで・・・国民の所得は増えたものの、物価もそれなりに倍増したように感じました。

2. 入社式と新入社員のその後

私が入社した昭和38年の新入社員採用人数は、合計221名、内43名が川崎製油所勤務に配属され、残り178名が販売部門として本社直轄のサービスステーション勤務(ガソリンスタンド)に配属された。入社式は4月1日、東京の産経会館で行われ、翌日からは、それぞれの配属先で勤務となった。入社式当日、一冊の著書(社長・近藤光正著「道ひとすじに」)が配布され、熟読するようにとの指示があった。その後、昭和40～41年頃、共同石油(株)設立によりサービスステーション勤務に配属された社員は、共同石油(株)および東亜石油販売(株)に移籍されることとなった。また、その頃の新入社員は正社員になるまで、入社から3ヶ月間は試採用期間、3ヶ月後に雇員として採用、雇員に採用後3年後に社員として採用される、ということで都合3年間を要した。



3. 通勤手段

川崎駅から会社までの通勤手段は2通りの経路があった。

(1) 市営トロリーバスによる通勤

川崎駅(小美屋デパート前・現在の川崎DICE)から乗車、市役所前・富士見公園前・臨港警察署前・鋼管水江北門前から鋼管水江正門前にて下車。なお、トロリーバスは昭和42年4月に廃止され、川崎市営バスに代わり現在に至っている。

(2) 川崎鶴見臨港バスによる通勤

駅前の地下道を通り、バス停(旧太田病院前)から川21系統・急行日立造船行に乗車、川崎駅前から臨港警察署前まで通過、約15～20分位で鋼管水江正門前にて下車、バスはいすゞ自動車製のボンネット型式の車両が多かった。



モハ113系車両

4. 当時の国鉄川崎駅と周辺

当時の川崎駅は東海道線の列車は停車せず横須賀線の列車のみ停車していたが、昭和55年10月に大船～東京間の東海道線と横須賀線の線路が分離され、横須賀線は横浜～新川崎～品川ルートに変更され、東海道線の全列車が停車することとなった。また、東海道線はモハ110系15両編成、その後モハ113系車両が運用されるようになった。

* 川崎駅の改札口と駅舎について

当時の駅事務所・改札口は1階にあり、その後、高架化された駅舎が昭和63年頃に完成し、改札口・駅事務所は2階に移動し、現在に至っている。同時に従来川崎駅北口の改札口は閉鎖されたが、閉鎖に反対する抗議行動は相当長期間に亘って行われていた。

* 駅前の地下道

駅改札口からバス停までは、駅前の地下道を利用していました。この地下道は、昭和37年11月27日に川崎駅前公共地下道として開通した。当時、駅前からバス停までは、地上を走行していた京浜急行の踏切を渡る必要があり、当該地下道が建設されたもの。その後、この地下道は大規模な拡張工事を経て、昭和61年頃にアゼリア地下街として開業し現在に至っている。

* 京浜急行の高架化

当時地上を走行していた京浜急行は、昭和41年頃に高架化され、そのガード下は、路線バスの発着場所として使用されている。

5. 製油所の近傍

(1) 東亜会館(その後東亜庭園、現・東亜石油本社ビル)

バス停、鋼管水江正門前で下車すると、目前に2階建ての木造建築物があり、東亜会館の名称で社員寮として、課長・係長・班長クラスの方々が居住されていた。

(2) 神奈川臨海鉄道・水江線

市道水江通りに沿って敷設された線路敷で、9地区の西側・旧本館事務所の西側を通り第3工場そして水江通りを横断して、日本鋼管(株)の敷地内へと敷設された鉄道専用線。9地区の西側を過ぎた場所で東亜石油支線として分岐、共用道路横の線路敷を通り製油所の第一工場の貨車出荷設備まで敷設されていた。なお、東亜石油支線は、昭和50年頃第1工場にFLG装置を含む一連の装置建設のため廃止され、水江町線は平成27年に廃止された。

(3) 共用道路

バス停・鋼管水江正門前下車から当時の製油所の本館事務所までは、共用道路(大阪製糖と東亜石油との共用で使用)を通行して通勤していた。現在のINTEG・PV装置エリアは、当時大阪製糖の事務所・工場の敷地で昭和41～42年頃に買収し、跡地に建設されたものである。その後、その奥の三井製糖敷地も買収し、発電所(旧ジェネックス水江発電所)等が建設されたので、共用道路の名称は使用されなくなった。

6. 昭和38年頃の東亜石油川崎製油所

- (1) **東亜石油川崎製油所正門** バス停から共用道路を通行し、約150m先の右側に入口門があり、東亜石油第1工場の正門であった。現在は、FLG門となっている。
- (2) **当時の本館事務所** 第1工場の正門を入った左側に鉄筋コンクリート2階建て事務所で、1階は玄関を入って左側は経理課の事務所、右側が総務課・人事課の事務所で、2階は会議室と特殊試験室になっていた。
- (3) **社員のロッカールーム** 門を入った右側には社員のロッカールーム等が配置された建物があった。
- (4) **第1工場の装置等** 第1工場内は、次のような装置が整然と配置されていた。第1蒸留装置(20,000BBL/日)、灯油硫酸洗浄装置、アルカリ中和装置、ボイラー(日立バブコック製)、陸上出荷設備(ローリー出荷/貨車出荷)、オイルセパレーター・原油タンク、重油タンク・製品・半製品タンク、原油受入設備(栈橋)などであった。
- (5) **第2工場の装置群** 共用道路を通行し約100m先の左側に第2工場の入口門、警備保安消防事務所、消防車の車庫が配置されていた。設備関係はつぎのとおり。
第2常圧蒸留装置(30,000BBL/D)、ガソリン洗浄装置(MEROX装置)、ガス回収装置、UOP式ユニファイニングプラット装置、No.1灯油水素化脱硫装置、後にNo.2軽油水素化脱硫装置が第2常圧蒸留装置東側に建設された。これらの装置群は、昭和61年頃流動接触分解装置(FCC装置)の建設に伴い、No.2軽油水素化脱硫装置を除き全て撤去された。
- * ユーティリティ施設として、ボイラー・自家発電装置、東電からの高圧受電設備、純水製造装置、廃棄物焼却装置、フレアスタック設備、オイルセパレーター、ブローダウスタック等
 - * 貯蔵施設は、原油・半製品・製品の貯蔵タンク群、LPG貯蔵球形タンク
 - * 出荷設備として、製品の海上出荷設備、LPGのローリー出荷設備
 - * 事務所は、製油課事務所、工務課設備係、工事課、計電課計器係・電気係の事務所で、これらはプレハブ形式の建物内に集約されていた。



製油課と工務課・計電課の事務所
(昭和41年)

7. 勤務体系

製造現場での勤務体系・・・12時間交代の3直2交代制

- * 製油2課1係：第2常圧蒸留装置、ガソリン洗浄装置、ガス回収装置を担当し、班長を含め直7人体制で勤務
- * 製油2課2係：UOP式ユニファイニングプラット装置、No.1灯油水素化脱硫装置を担当し、班長を含めて直5人体制で勤務



第2常圧蒸留装置の蒸留塔
頂部から装置を望む



第2常圧蒸留装置の計器操作パネル



第2常圧蒸留装置の夜景

8. 新入社員の教育

各現場での装置の概要、作業工程、作業にあたっての安全上の注意事項等の詳細について説明があった。特に印象に残った教育は、タンクローリー出荷設備で係長からの安全教育であった。「タンクローリー車がタンクの蓋を解放して街中を走っている風景を見かけるが、君たちにその理由が解るか？」との質問であった。理由は、この操作を省略してタンク内にガソリン蒸気が充満している状況で灯油を積み込むと爆発することがあるとのこと。以前この出荷設備で消防係員立合いで再現したところ、消防係員の目の前で爆発したとのこと。タンク内にガソリン蒸気が充満し濃度が爆発範囲にある場合、灯油積み込み時に発生する静電気が着火源となり爆発するとのことであった。

9. 新入社員の業務

- (1) 直当たり2回、装置内の現場の運転状況把握のため、温度・圧力・流量等の記録と装置内のパトロール
- (2) 品質管理のため、1直1回の全ての製品・半製品のサンプル採取と試験室への運搬
- (3) 昼勤時の夕食の調理

班員から毎月500円を徴収、米・缶詰を購入、夕方5時頃に調理して食事、この食事が終わるとようやく間もなく勤務が終了するとの実感が湧いてきた。

- * 飯炊きの方法：先輩から伝授された方法で、人数分の弁当箱に米を入れて、水洗い後、蒸気釜にて蒸し、約15～20分程で炊き上がる。先輩からの柔らかめ、硬め、お粥などなかなか難しい注文があり苦労した。

勤務中の大きな出来事

10. 製油2課1係（第2常圧蒸留装置系）勤務中に経験したこと

(1) あやうく国鉄鶴見事故に遭遇するところであった

昭和38年11月9日21時40分頃鶴見－新子安間で発生した事故で、貨物列車が脱線し、横須賀線上り東京行き（12両編成）電車が衝突、更に下り逗子行き（12両編成）の列車が衝突、死者161人、重軽傷者120人の大惨事であった。当日、昼勤の勤務が終わり、先輩と2人で川崎駅で別れ、先輩は下り横浜方面の列車、自分は上り品川方面の列車で帰宅、帰宅後テレビでこの事故を知ってびっくり・・・翌日、先輩曰く、もし1本遅い列車に乗っていたら、俺は死んでいたかもと・・・お互いに肩を竦めたところであった。

(2) 昭和39年3月13日 第2常圧蒸留装置の蒸留塔のトラブル

3月14日昼勤のため出勤中、バスの中から蒸留塔の頂部から蒸気が出ているのが見えた。先輩の話では、隣の日本鋼管の守衛から火が出ているとの連絡を受けたとのこと。当日は、昼勤者と夜勤者が合同で装置内のパージ作業を行っていたとのこと、原因は、蒸留塔頂部付近からの水抜きライン(2B)に腐食孔が発生、漏洩した液体に着火したものであった。

(3) 労働争議と経営に係る筆頭株主の変更

昭和40年の春闘は、東亜石油始まって以来の大規模な労働争議であった。組合の要求に対してなかなか満足する回答が得られず、組合側は無期限ストに突入。会社側はロックアウトで対抗、組合側は正門付近での座り込みなど、ピケを張り対抗した。株価は一時26円/1株まで下落。その後、第2組合が発足し、最初の就労は、第1工場の正門を第1組合員が占拠しているため入構できず、桜木町近くの棧橋から船に乗り、第2工場第6ポンプ室が管轄する棧橋から上陸して就労した。争議解決後も第1組合員と第2組合員のシコリが残り、班のチームワーク回復に相当苦労した。

(4) 筆頭株主の変更

昭和41年11月に伊藤忠商事（株）が筆頭株主になり経営の充実化、装置群の強化（その後のFLG装置・PV装置の建設）とともに、福利厚生施設の充実が図られた。

(5) 福利厚生施設の充実

伊藤忠体制に変更された後、東亜石油として不足していた福利厚生施設の充実が計画実施された。

* 社員寮の充実

従業員の居住施設として、バス停前の東亜会館、民間からの借上げの住吉寮などがあったが、入居希望者の増加に應えることができなかった。そこで、川崎市高津区(現在は宮前区に変更)野川の高台に、独身寮と4階建ての家族寮(入居可能世帯数 40世帯)が建設された。間取りは和室6畳2間の2LDK、蒸気暖房設備が設置された快適な間取りであった。家族寮の入居可能期間は8年間であったが、この他に相鉄線の鶴ヶ峰にも民間から借り上げた家族用の鶴ヶ峰寮があった。



野川家族寮 鉄筋コンクリート4階建

寮祭 昭和52年10月頃

* 持ち家制度の推進

昭和52年頃から家族寮への入居希望者の増加に対応するため、従業員の持ち家制度が強力に推進された。会社からの融資額1,000万円、金利3%で、融資条件として定年退職までに返済が完了し、年間の返済率が前年年収の30%以内であることなどが条件であった。この制度を利用して住宅を入手したところ税務署から呼出しがあり、会社融資の金利が3%であることは、当時の住宅金融公庫金利5.5%より低いので、贈与に該当するとの指摘を受けた。会社従業員の持ち家を推進するための画期的な制度であることを強力に説明し理解を得た。税務署職員に羨ましい制度であると言わしめるだけの画期的な制度であった。

*** 従業員の保養施設（東亜石油奥志賀山荘）**

長野電鉄の終点・湯田中駅からバスで約1時間、終点の奥志賀で下車、徒歩約10分位の場所に東亜石油奥志賀山荘が建設され、昭和49年10月に完成した。周囲は自然豊かで夏季には避暑と家族の憩いの場、冬季はスキーなどが存分に楽しめる絶好の施設であった。社長による開所式後に、本社 社長室・環境管理部・東亜共石本社グループと総勢17名で訪れ、深秋の奥志賀を満喫した。

***社員クラブの開設**

川崎駅に近い、富士見通り交差点
近くの3階建てビルの2・3階に社員
クラブが開設され、帰宅途中に社員
の憩いの場、宴会、会議等で大いに
活用された。料理は豊富で安く、
様々なアルコール飲料が整っており
大変好評であった。



奥志賀山莊 正面玄関

(後編に続く)

ウォーキング 有志の会

上野界限 名所旧跡散策

10月11日(土) 早朝から雨が降ったり止んだりの雨天での開催でしたが、集合時間の10時30分には一人(体調不良で反省会から参加)を除いて18人がJR上野駅公園改札に集合しました。正しく「雨なんか何のその」です。久しぶり(3年ぶり?)に舞鶴へ単身赴任中の三上さんも参加されました。今回は東京を熟知(下見3回?)している西川さんが幹事で、雨が降っても参加者が楽しめる・感激するコースを目印の旗(迷子防止)を片手に案内して頂きました。(殆どが初めての所でした。田舎者!)

コース

上野公園口改札 → 黒田清輝記念館〔絵画鑑賞〕 → 国際子供図書館〔重要文化財建物〕 → 寛永寺本堂 → 上野東照宮 → 谷中墓地巡り〔徳川慶喜、渋沢栄一、他〕 → 国立科学博物館 → 上野大仏 → 西郷南洲公銅像 → 御徒町



上野公園 野口英世像前で集合写真



黒田清輝記念館で絵画鑑賞



昼食時になり雨を避けて18人が一堂に集まる場所を探しても無く、丁度、上野公園内でお祭り開催中で飲食できるテント張りのブースがあり、そこに2組に分かれて昼食タイムです。飲み物・食べ物のお店が出ており飲兵衛には絶好の場所を確保しました。
(寒かった...)



徳川慶喜公墓所



渋沢栄一家墓所



上野の大仏様



寛永寺本堂



寛永寺五重塔



上野東照宮



やっぱり西郷さんでしょう!

雨の中、どこに行っても人・人・人です。三連休の初日で家族連れも多かったです。ツアーコンダクターの案内で色々な所を見て歩き、上野の西郷さんも見て反省会場の御徒町駅前の吉池食堂まで歩き、反省会から参加のNさんと合流し、今日の振り返り、近況報告、昔ばなしに花が咲きました。

雨にも負けず楽しい1日でした!!



雨宿りしながら昼食



吉池食堂で乾杯 お疲れさま!

特別行事

東京立川 昭和記念公園 散策

穏やかな秋晴れとなった**11月15日(土)**、スタート地点のJR立川駅北口改札出口に11名(山崎、田尻、牧之田、林、桑原、淡島、高倉、古川、大田、中村、熊坂)が参集、昭和天皇記念館見学、紅葉見ごろの昭和記念公園内(カナル ~ かたらいのイチヨウ並木 ~ 日本庭園・盆栽苑)散策、最後に駅前居酒屋での懇親会、楽しく笑顔の一日となりました。



立川駅に集合



昭和公園入口 カナルのイチヨウがお出迎え



昭和天皇の御料車前で



かたらいのイチヨウ並木で



日本庭園の紅葉



みんなの原っぱで乾杯



駅前の魚星で仕上げる乾杯

青空のもと、
紅葉を堪能された皆さま
お疲れさまでした

時 期	行 事	開催場所	開催時間・その他
4月25日(土)	春のハイキング	未定(検討中)	
5月23日(土)	総会・懇親会	神奈川県民共済プラザビル メルヴェーユ 6階「ヴァランセ」 JR「桜木町駅」から徒歩3分	13時～15時 ★昨年と同じ会場です
7月18日(土)	みんなで元気に！ 暑気払い	ホテル メトロポリタン川崎 「Terrace and Table」 JR「川崎駅」から徒歩2分	17時～19時 ★昨年と同じ会場です
10月24日(土)	秋のハイキング	未定(検討中)	

- 「春のハイキング」および「秋のハイキング」については、詳細が決まり次第、社友会ホームページへ掲載しますのでこちらでご確認ください。
- 行事の内容変更、中止、臨時開催等日程や内容が変更になる場合があります。その際は、早急に「社友会ホームページ」でお知らせしますのでご覧ください。

2026年 東亜石油社友会 総会・懇親会（お知らせ）

【お互いの健康を確認し、近況・昔話を語ろう！】

- 日 時 5月23日(土) 13時～15時
- 場 所 メルヴェーユ 6階『ヴァランセ』（パーティー会場）
横浜みなとみらい地区／県民共済プラザビル内
JR京浜東北・根岸線「桜木町駅」下車 徒歩3分
- 会 費 9,000円（2025年5月以降に入会された方は無料です）
- 次 第 ①ご挨拶（社友会、ご来賓（東亜石油株式会社殿））
②2025年度の事業・決算報告、2026年度事業計画
③お亡くなりになった方のご報告と黙祷
④懇親会



- ・会食（ビュッフェスタイル）、懇談
- ・新規会員の紹介、会員の方の近況報告
- ・長寿（米寿・喜寿）を迎えられて参加されている方へのお祝い



<事務局からのお願い>

- メールアドレス未登録の方および変更された方は登録・変更をお願いします。社友会からの情報をタイムリーに入手して頂くためにも是非ご協力願います。
- 会報・たより、ホームページに掲載する記事（近況報告、趣味、旅行記、家族・ペット、現役時代の思い出等）を募集していますので、皆さまからの投稿をお待ちしています。
- 会員の皆様の身近に“苦楽を共にして同じ釜の飯を食った仲間”（東亜石油グループのOB・OGの方）で未だ社友会に入会されていない方がいらっしゃれば入会をお勧め頂きたく宜しくお願い致します。
- 社友会への連絡や問い合わせ等は、たより42号に同封しました「東亜石油社友会 連絡先（保存版）」（2025.05.30）に記載の社友会事務局の何れかにご連絡頂ければ速やかに対応致します。

伝言板

新 会 員

川嶋 勝さん 2025年 9月 (東京都世田谷区 在住)
三上 康夫さん 2025年11月 (神奈川県横浜市 在住)

お悔やみ申し上げます

武者 義雄さん 2025 年 10 月 22 日 (満89歳)

(2025年 12月 1日現在 会員数 193名)

2026年度 長寿の祝い

米寿 (1938年4月～1939年3月誕生)

小野寺 邦夫さん (5月 1日)、山崎 英雄さん (5月 7日)、大澤 智之さん (8月23日)
川嶋 勝さん (9月10日)、降矢 勝夫さん (9月20日)、若林 俊作さん (9月29日)
坂上 誠一さん (10月22日)、上谷田 忍さん (3月15日)、中村 征さん (3月24日)

喜寿 (1949年4月～1950年3月誕生)

富松 準一さん (4月 4日)、村田 勉 さん (6月 7日)、井野元 和子さん (7月5日)
諫早 昭三さん (8月 1日)、関根 正夫さん (8月11日)、今田 照男さん (8月12日)
齋藤 健司さん (9月21日)、柴田 憲一さん (9月22日)、熊本 修身さん (9月29日)
谷川 元秀さん (11月 5日)、石田 力 さん (12月16日)

たより編集委員

古森 光一郎
諫早 昭三
齋藤 健司
河内 満久
井上 義久
石井 好

会員相互の連帯と親睦を図る機関紙「たより」の、記事内容、紙面割付けなどについて、喧々諤々の意見を交換した結果が会員の皆様に配信されることを考えると、編集会議はいつも緊張する。

ハイキングやウォーキングの訪問地、コース設定、反省懇親会会場の選定などは、実行委員が悩む事柄である。これに加えて開会日時を「平日」にするか「休日」にするかも同じく悩ましい問題である。

平日と休日では混雑の状況が全く違って、ゆったりと楽しみたいならば平日に限るというのが、いままでの常識であった。

しかし、名の知れた観光地はインバウンド需要の影響で、平日でも猛烈に混雑するし、そこに向かう高速道路のサービスエリアなどは、駐車できないほど満杯でうんざりすることが度々である。

「エブリデイイズ サンデー」つまり「サンデー毎日」の恵まれた我々の特権の一つに平日を有効に活用できることがあると思っていたが、それが脅かされてきている。インバウンドもう要らないと言いたくなる。これから最盛期のスキーは、平日であるか休日・祝祭日であるかによって、料金(リフト)やゲレンデの混雑状況が全く違う。平日はリフトやゴンドラに並ぶこともなく気持ちよく滑れる。スキー場にはインバウンドの波が押し寄せないで欲しい。

(K・S)

